

---

# 首取物語～なよ首のかぐや姫～

ぬじゃわきし

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

首取物語〜なよ首のかぐや姫〜

### 【Nコード】

N2303M

### 【作者名】

ぬじゃわきし

### 【あらすじ】

竹取物語のパロディです。最初から最後まで首ネタを押し通して  
るため、必然的にグロい事をご了承ください。

むかしむかし、首取の翁というおじいさんがいました。

翁は渋谷の雑踏に入っては人首を取り、その首でいろんなもの、たとえば首壺、首杯、首鉛筆、首消しゴム、首らんだんなどを作って売って生活していました。

ある日、翁がいつものように首を取りに渋谷に行った所、不思議な光を発見しました。

なんじやろかと恐る恐る近づくと、首の中が光っている人だったのです。

早速翁は首を切り落としてみました。

シュピンツ、ドウパツ。

すると首の中に10cmほどの可愛らしい女の子がすやすやと眠っていました。

翁はその女の子を丁寧に首の中からすくい、これは子供のできないわしらへの、天からの贈り物じゃと喜びながら帰りました。

それから不思議な事が起きました。その日から、翁は首を切れば切るほど、その首から金塊がぼとぼと落ちて来たのです。

翁はその金塊を売って金持ちになりました。

さて一方、娘の方はこれまでにない美貌を持った立派な女性に成長しました。それはそれは、かぐや姫を一目みたいと家にわんさかひとが押し寄せたほどです。

翁は彼らの首を片っ端から切り落としてそれで収入源にしました。

彼女は「なよ首のかぐや姫」と呼ばれるようになりました。

翁は、彼女の美しい首なら高く売れるな、と打算していました。

そして早速、そのあまりの美貌で「かぐや姫の首が欲しい」と申し入れる人が続出しましたが、気やすく我が娘の首をあげるわけにやいかんと、翁は断りました。

それでも熱心な五人の政治家が現われたので、彼らに課題を出しました。

アメリカ、フランス、イギリス、中国、日本の五ヶ国の首相や大統領の首を持ってくる、と言う課題です。

ところが、どの政治家も失敗し、皆ひどい有様で帰り、中には他人の首を大統領の首だと嘘をつく者もいましたが、見抜かれてしまいました。

しかし、帝の強い誘い（首が欲しい）にかぐや姫は断りきれずにいました。

とりあえず彼女は曖昧な返事をしました。

ある日、かぐや姫は月を見るなり泣きだすようになりました。いったいどうしたのか、翁が聞いてみるとかぐや姫は答えました。

「私はこの星の生まれではありません。月に生息する、首に寄生し増殖するエイリアンなのです。満月が来るとお迎えが天から来て、この地球からお別れしなくてはいけません。」

翁はびっくりしてこの話を帝に告げました。早速翁の屋敷に戦車や歩兵などの警護をつけました。

さて、満月の夜、兵士たちは張り詰めた空気の中、空を見張っていました。だがいくら空を眺めても、星一つない夜空に月が浮かんでいるだけでした。

しかし、叫び声が聞こえました。

「ああああ、月があああ！」

見ると月が突然変形しているではありませんか。そう生首の形です。首月はそのまま地球に接近しました。兵士は恐れをなして逃げ出しました。ぶつかる、と思った時、すれすれの時点で月が止まりました。

そして月の口から人があらわれました。人は言いました。

「娘よ、時間だ。」

「まって。」

かぐや姫は帝の方に行つてなぞの茶色い粉末を帝に渡しました。

「これは不死の薬。少量でも体に入れば何があつても永遠に死なないわ。」

「いや、でも、あなたの生首のない人生など、永遠に生きたくない。」

「いいえだめよ。」

突然かぐや姫は帝が握っている薬の粉末めがけて吹きました。粉末は散り、帝は咳き込みました。

「げほげほ、あ、ああ！飲んじゃった！」

「あとお土産も頂くわ。」

シュピンツ、ドウパツ。

帝の首は切り落とされました。今や不死身の帝は首なしのままにやらうめきながら暴れ出し、兵士がすぐさま「帝！」と叫びながら彼を運んで行きました。

「娘よ、もう出発するぞ。」

「あ、待つて待つてー、先生ー。あ、たつみちゃんお待たせーイエー！そう、地球楽しかったー」

とかぐや姫はほかのギャル友と仲良くきゃぴきゃぴ会話しながら月

の宇宙船に乗りました。月は元の場所に戻りましたとき。

\*

話は以上だが、一つ後日談がある。

首を失った帝はその後天地をさまよい、ある日突然巨大化して山になってしまった。かくしてその山は不死身の帝になぞらえてふじ山と名付けられ、それは今日まで呼ばれている。

おわり

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2303m/>

---

首取物語～なよ首のかぐや姫～

2010年10月28日03時44分発行